十島村教育委員会だより　平成 29 年５月号

むらやかトーカラ情報

南北１６０㎞　「心をつなぎ　気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒 892-0822 鹿児島市泉町 13 番 13 号
TEL　099-227-9771

５月・・・年度当初の学校訪問

十島村教育長　有村孝一

毎年５月のレントゲン便を利用して、鹿児島教育事務所と合同の学校訪問を実施しています。今年は５月１６日から１７日にかけて実施しました。今回は、県教育委員会から村久木教職員課参事・平田義務教育課指導監、鹿児島教育事務所の荒田所長など、県８名と村教育委員会６名の総勢１４名による訪問となりました。

年に一回のレントゲン便の特設便ということで、一人一人がそれぞれの目的を持って、多くの人が乗船していました。波がなく順調に船は航海していきました。

各学校では、校長・教頭による新年度の学校経営方針等の説明を受け、施設の参観などを行いました。また、子どもたちが在校時間の学校は、授業参観もしました。

最後の宝島では、悪石島とＴＶ会議システムによる授業も参観することが出来ました。県教育委員会の先生方も興味を持って見ておられました。

急ぎ足での学校訪問となりましたが、それぞれの学校の新たな取組がなされていました。

４校で教頭が代わり、活気を感じることでした。

ところで、村からは、今年、学校教育指導監、社会教育指導員、村誌編集委員に就任しました４人の先生方も同行しました。初めて目にする十島の島々に感嘆の声をあげていました。

その村誌編集ですが、村では今年から、「十島村誌」の追録の作成に取り掛かることとしました。「十島村誌」は５年間にわたる編集の末、平成７年に発行されました。１，７５８ページにわたるその厚さも７ｃｍに及ぶものです。内容は、十島の自然環境、社会環境、歴史、民俗文化、行政・教育など多岐にわたっています。今では、学校など様々な場面で十島村を知る手掛かりとして活用されてきました。

発行以来２２年。村は、この間に大きく変貌を遂げてきています。その歩みを記録に残そうという取組を今年から始めるわけです。大きく変わったところ、その中でも特に行政を中心にして書き加えていきますが、今までの村誌に付け加えるようなことがあれば、それも加えていくことにしています。

村の発展の歩みを記録に残して、後世に引き継いでいくということは、今を生きる私たちの使命であると思います。どのような追録が出来上がるか、今から楽しみにしています。

36年ってすごい　田知行さんに感謝！

５月１２日（金）今年も「カーネーション」をいただきました。８１人の児童・生徒たちから花を贈られる保護者の皆様の笑顔が見えるようです。たぶん、花に「いつもありがとう」の言葉が添えられたことでしょうね。

シリーズ――十島村で学ぶ
十島の学校にやってきて
悪石島小学校5年　森木　洋那

悪石島での生活も３年目です。悪石島に引っこすことになり，正直「え，また転校か。」と思いました。フェリー一出航の時は，友達と先生がずっと手をふっているのを見て，さびしさでいっぱいだったことを覚えています。知らない所で，うまくやっていけるのか本当に不安でした。最初は，さそわれても 出ませんでした。母は，
「せっかくさそってくれてるのに。自分からもっとグイグイいかんと。」と，よく言っていました。そんなはずかしがり屋の私を変えてくれたのが悪石島です。

学校の誰もが，一番下の学年だった私に優しくしてくれました。４年生の時は，下の学年が５人もできて，手本になろう，優しくしてあげようと思って過ごしました。

５年生になった今，２つの目標を立てました。一つは，ここでしか経験できない行事や活動にしっかり取り組むことです。月に一度のあおぞら活動では，気持ちをこめて掃除をし，タケノコ採りやボゼ祭りでは，島民の方々ともっと交流を深めていきたいです。

もう一つは，一人しかいない６年生をサポートすることです。これまでの高学年の人たちがやってきたことを学びながら，自分に何ができるかを考えて動きたいと思います。

７０人ほどのこの島の人たちは，私にとって家族のような存在です。島のどこであっても「洋那ちゃん，行ってらっしゃい。」「お帰り。」と声をかけてくれます。温かい言葉が，私を安心させてくれます。私も，同じように笑顔で，相手に届くあいさつで，島の人の心を温かくしたいと考えています。

シリーズ――新聞に投稿１
（平成２９年４月１１日南日本新聞掲載）
中之島小5年　平泉 公大

最上級生として

ぼくは今年から５年生です。６年生がいないので、小学校ではぼくが最上学年です。

今年、ぼくは大きく二つの目標を立てました。一つ目は自分の行動についてです。今までのぼくは自分勝手に行動していました。低学年が思った通りに動いてくれないと、すぐに顔に出していました。

しかし今年からは最上学年です。今までとちがって自分勝手な行動をせず、みんなのことを考えて、低学年を引っぱっていけるようにしたいです。

次に運動や勉強についてです。これまでのぼくは、ねばり強さがたりなかったと思います。これまで学習してきた教科も、新しく学習する家庭科や外国語なども、わからないことがあってもあきらめず、粘り強く取り組んでいきたいです。

これからは心の広い５年生になって低学年を引っぱり、小学生のリーダーであることを行動で表したいです。

シリーズ――新聞に投稿２
（平成２９年４月１６日南日本新聞掲載）
中之島中2年　小林 ひかる

子供の歌
(4/26)

春風
あたたかい　あたたかい　きもちいい春風
みんながすきな春風
みんなふかれてきもちいいな
（諏訪之瀬島小２年　日高風皇）

ようこそ中之島へ

平山教頭先生、川畑先生、杉野先生、中之島小中学校へようこそ。私たちは、先生たちが来るのを、とても楽しみに待っていました。

中之島小中学校は小さな学校ですが、春の一日遠足や夏の水泳教室など、楽しい行事がたくさんあります。水泳教室は、学校にプールがないので海で泳ぎます。小さな魚などをたくさん見ることができて、とても楽しいです。

秋になると、運動会や文化祭があります。地域や島外の人も参加して、盛り上がります。

昼休みには、みんなでサッカーやバスケットボールをします。調理員さんが作る給食も、とてもおいしいです。特にふかふかの温かいパンが自慢です。先生方、私たちとたくさんの思い出をつくっていきましょう。よろしくおねがいします。

シリーズ――新聞に投稿３
（平成２９年４月２０日南日本新聞掲載）
諏訪之瀬島小2年　おきぞの　たけはる

２年生もがんばるぞ

ぼくは２年生になって、がんばることが三つあります。

一つ目はかん字です。かん字ドリルをいつも見て、ぜんぶおぼえるようにします。かくときは、ゆびがつかれてもきれいにかきます。日きでも、かん字をきちんとつかえるようになりたいです。

二つ目は、あさランです。よそ見をしないで、まえだけを見てはしります。二十しゅうを目ひょうにつづけたいです。はんぞくんについていけるようにしたいです。

三つ目は、一年生のお手本になることです。じゅぎょう中にしっかりはなしをきいて、さっさとかくようにします。へんじやしせいもしっかりします。きゅうしょくのときは、こぼさずきれいにたべたいです。そして、そんけいされる二年生になりたいです。

児童生徒、離任された先生の投稿に元気づけられました。

十島、最高です！

シリーズ――新聞に投稿４
（平成２９年４月22日南日本新聞掲載）
小宝島中2年　有馬　蓮

待ちに待った同級生

「授業は楽しいですか」と聞かれると、迷わず「楽しい」と答えます。

僕は、小宝島に小学３年生の時に転校してきました。当時、学級には先生と僕一人でした。４年生になると大阪から山海留学生が来て、友だちが一人増えました。いつも一緒に遊んで、とっても楽しかったのを覚えています。でも１年間だけでした。５年生から中学１年生まで、一人だけになりました。

この４月、僕の学級に転校生が来ました。男の子です。趣味も合います。気も合います。先生と一対一の授業も、先生が僕の考えを聞いてくれて楽しいけど、今は同級生も聞いてくれて、発表のしがいがあります。待ちに待った同級生です。部活動も勉強も負けないように頑張りたいです。

悪石島に住めて本当に良かった
教員　鹿倉高行

（平成２９年４月２３日
南日本新聞「ひろば」掲載）

本年度の教職員異動で枕崎市の中学校に転勤が決まり、3年間住んでいた十島村悪石島を離れることになりました。

悪石島は人口70人余りの小さな島です。お店は一つもなく、食糧などの生活必需品は週２回来る船が運ぶだけ。あるのは雄大な海と、延々と続く竹と森と牧場のみです。

それでも、悪石島の人々は、それを当たり前のように暮らしています。大運動会や学習発表会、ボゼ祭りなど、ことあるごとに全員が集まり、大人も子どもも踊り歌って、騒いで楽しく過ごしました。外部から来た私にも優しく接し、時々魚やダイミョウダケなどの差し入れをもらいました。

島を離れることが決まり、一人一人からの励ましの言葉をもらいました。引っ越しは７台の軽トラックで手伝ってくれました。島を離れる朝、島民総出で見送りに来てくれました。

今振り返ると、不便なことが多い中、人間味あふれ、魅力的な人たちがたくましく住む島で、３年間夢を見ていたんじゃないかと思ってしまうほど、貴重な経験をさせてもらいました。

新しい学校の生徒全員に教えたいです。「枕崎の海の向こうの島には、不便な中でも、たくましく生活する人たちがいるんだよ。」と。